防除所レポート

モモチョッキリによるナシ被害

本年６月，県内のナシ圃場において，リンゴの主要害虫であるモモチョッキリによるナシ幼果への被害が確認された。その特徴について紹介する。

1. 形態及び生態

本種はゾウムシの一種である。成虫の体長は 10㎜ 弱，赤銅色で強い光沢がある（写真 1）。卵は長径約 0.6㎜ の卵形で乳白色，幼虫は芋虫状で乳白色を呈している。

主な宿主は，リンゴ，ナシ，モモ，ウメ等である。リンゴの場合，成虫は４月下旬から５月上旬頃に出現して７月上旬頃まで生存し，肥大した幼果に口吻で穴をあけ，そこに産卵する。1 頭あたり 80 個前後を産卵し，卵は 7～10 日で孵化する。幼虫は 20～40 日間幼果内部で成育した後，果実を脱して，地下 5～10cm の位置に蛹室をつくり，約 10 日後に羽化する。

2. 被害の特徴

成虫は幼果に直径約 1㎜ の穴をあけて産卵し，粘液を吐いて穴をふさぐ。産卵後は，果柄に穴をあける。果柄は加害部から折れ，果実は萎縮し，やがて落果する（写真 2）。また，成虫は果実表面を食害するため，浅い食痕が残る。

3. 防除対策

ナシでの登録農薬はない。被害果の中には幼虫がいるので，被害果は適切に処分する。

写真 1 モモチョッキリゾウムシ成虫

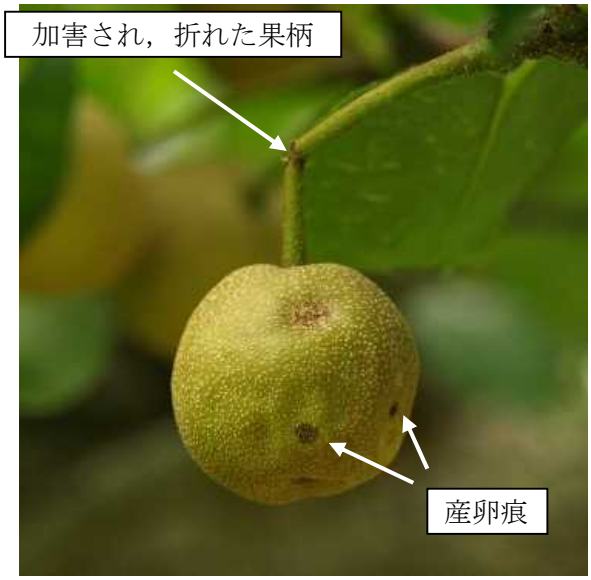

写真 2 産卵痕と加害された果実及び果柄

茨城県病害虫防除所
病害虫発生予報 10 月号（平成 24 年）より抜粋